KEY PERSON

「目指すのは自分が思う良い結果ではなく、依頼者に満足してもらえる結果です」

西村隆志法律事務所 弁護士

西村 隆志

仁・義・礼・智・忠・信・孝・悌

大学では政治学科を専攻したが、4年生になってから一転、法律の道に転向したという西村弁護士。努力を重ねて司法試験に合格し、弁護士記章を帯用するようになったのは、この道を志してから7年ほど経ったころだった。そして、2011年に開業。債権回収や倒産問題をはじめ、様々な問題を扱ってきたが、その中で常に目指しているのは“依頼者に喜んでいただくこと”。自分なりに一生懸命取り組み、良い結果が出せたと思った時でも、必ずしも依頼者に満足してもらえるかどうかは分からない。自己満足で終わるのではなく、依頼者の笑顔で幕引きをすることを信条に、これからも持てる知識・ノウハウを活かしていく。

（対談記事は60～61頁に掲載）

義

弁護士 **西村 隆志**

一人ひとりが高い専門性を持ち チームとして様々な問題に 対処できる法律事務所を目指す

西村隆志法律事務所

大阪府大阪市北区西天満２丁目６番８号 堂島ビルヂング 501 号室
TEL 06-6367-5454
URL：http://www.nishimuralaw.jp/

■債務整理から交通事故、離婚、遺言・相続、債権回収、人事・労務、不動産など、個人・法人を問わずあらゆる法律相談に対応する『西村隆志法律事務所』。開業から５年目を迎え、現在は西村弁護士以下、山岡弁護士、福光弁護士の３名で様々な依頼に応えている。本日は女優の島田陽子さんが訪問。お話を伺った。

弁護士 **山岡 慎二**

弁護士 **福光 真紀**

同じ法科大学院出身の３人で 様々な法律相談に対応

島田　早速ですが、西村先生の歩みからお聞かせ下さい。
西村　山口県の出身で、地元の高校を卒業した後、郷里を離れて『同志社大学』で学びました。大学では政治学科を専攻していましたが、途中から法律分野が面白そうだと思いまして。それで、大学４年生から本格的に法律の勉強をはじめたんですよ。
島田　では少しばかり遅いスタートだったのですね。
西村　そうですね。大学院修士課程に進んで在学中に弁護士資格を取ろうと思っていたのですが、勉強する時期が遅かったこともあって、なかなか合格することができませんでした。その後、『同志社大学法科大学院』を経て、2006 年に司法試験に合格することができたのです。
島田　そこから弁護士としてお勤めをはじめられたのですか。
西村　はい。司法修習を経てから弁護士登録を行い、３年ほど大阪の弁護士事務所に勤務した後、2011 年１月に開業して現在に至っています。
島田　現在は、何名の先生がいらっしゃるのでしょうか。
西村　開業後、山岡と福光が加わり、現在は私、山岡、福光の３人の弁護士で業務を行っています。
島田　山岡先生はどのようなきっかけでこちらに入られたのでしょう。
山岡　私は西村と同じ『同志社大学法科大学院』の出身で、友人の紹介でお話をさせてもらったんです。それまでは弁護士事務所といえば高齢で気難しい先生が経営しているというイメージでしたが、全く違っていたので驚いたんですよ。
島田　西村先生は物腰が柔らかくて、お話ししやすいですものね。
山岡　ええ。年齢も近いですし、ある程度自由にやらせてもらえるのかなという印象を持ちました。上からあれをやれ、これをやれと言われて、自分の志を全うできない事務所も多いと聞きますが、こちらはそんなことはなさそうですし、良い雰囲気だと思ってお世話になることに決めました。

アクセスの良さと気軽さ、 親しみやすさが魅力！

■大阪市役所や中央公会堂に隣接し、大阪経済の大動脈である御堂筋沿いの交通至便な場所に位置する『西村隆志法律事務所』。西村先生によると、法律事務所の立地は他の事務所との差別化にもなる重要な要素だという。「法律的なことで悩みがあっても、なかなか最初の一歩が踏み出せないもの。躊躇している間に、どうしようもない状態になってしまうことも少なくありません。この事務所は駅から徒歩５分で分かりやすい場所にあるので、ホームページをご覧になってはじめて来られる方も多いんですよ」と先生。
■さらに、最初の一歩を踏み出しやすいよう、初回の相談は１時間に限り無料にしている（要予約）。その後の弁護士費用についても、法テラスの「法律扶助制度」の利用に対応。分割払いも可能なので、経済的な事情によって弁護士費用を心配される人は、合わせて相談してみることをお勧めしたい。また相談を受けるミーティング・スペースは、法律事務所らしさを極力排除し、依頼者がリラックスして話ができるように工夫を凝らしているという。法律事務所は敷居が高いというイメージがあるが、西村先生をはじめ、山岡先生、福光先生共に明るくフレンドリーで、とても話しやすい雰囲気だ。法律的な問題解決を考えている方はホームページを参照の上、是非一度問い合わせてみてほしい。

ゲスト **島田 陽子**

（女優）

書籍や雑誌、新聞などのメディアにもたびたび西村先生や事務所のことがご紹介されているそうで、活躍範囲も拠点となる関西のみならず、全国に広がっているそうです。皆さんお若いのでフットワークも軽く、頼もしいですね！

島田　こちらに入られてからでは何年ほどになるのでしょう。
山岡　今年で４年目です。実際に入ってみても、事務所も西村も最初に受けた印象のままで、お世話になって良かったと思っています。
島田　一方の福光先生は、どのような経緯でこちらに？
福光　実は私も山岡と同じで『同志社大学法科大学院』の出身なんです。在学中、西村がゼミで指導を行っており、人となりも知っていたんですね。それで、こちらで求人募集があった時に、私のために募集してくれたのかと思ったぐらい嬉しくて（笑）。私は今年の１月に弁護士になったばかりなので、まだまだこれから勉強させていただくつもりです。

一人ひとりの専門性を武器に より良いサービスを目指す

島田　山岡先生から自由な雰囲気というお話がありましたが、西村先生ご自身としては、意識してそうした事務所づくりをされているのでしょうか。
西村　そうですね。昔の弁護士事務所は、山岡の言うようにボスがトップにいてワンマン経営というところも多かったのですが、それではいつまで経っても事務所として成長できませんから。
島田　トップの先生に何かあった時は、続けていくことができないと。
西村　ええ。私はもう少し継続的に経営していけるような体制をつくりたいと思っているんです。後は弁護士一人ひとりが専門性を持つこと。そうすればより良いサービスを提供することができますし、それが他所との差別化にもなっていくと考えています。
島田　西村先生のご専門はどういった分野ですか。
西村　事務所としては広く問題を扱っていますが、私個人としては債権回収や倒産関係を得意としています。また、最近力を入れていきたいと思っているのが離婚問題。これは非常にデリケートな問題なので難しい面もありますが、近年増加傾向にある問題ですので積極的に取り組んでいきたいですね。
島田　お話も尽きませんが、最後に皆さんの夢をお聞かせ下さい。
福光　まだまだ勉強の毎日ですが、今後は経験を重ねながら、弁護団活動にも参加していきたいと思います。
山岡　私は元々スポーツ法に携わりたくてこの道に進んだのですが、日本ではまだスポーツに法律を持ち込むという考え方が浸透していません。そうした中ではありますが、日々知識を蓄えながら、スポーツ関連の問題で弁護士が介入できるように努力を重ねていきたいと思っています。
西村　私は今、大学院のビジネススクールに通っています。そこで学んだ経営の知識を民事再生などの会社の再生に活かし、当事務所の新たな得意分野のひとつにしていければと思っています。
島田　本日はありがとうございました。益々のご活躍を期待しています！

（2015 年７月取材）